

8月29日 / 9月11日

尊貴光栄なる預言者前駆授洗イオアンの斬首祭

聖体礼儀

真福詞は、第一の規程の第三歌頌四句に、及び第二の規程の第六歌頌四句に。

トロパリ、第二調

義人の記憶は讚美するに在り、爾には、前駆よ、主の證は足れり、爾は実に諸預言者よりも尊き者と現れたり、蓋伝へられし者を流水に流すにも勝ふる者と為れり。故に喜びて真実の為に苦を受けて、地獄に在る者にも、肉体に現れて世の罪を任ひ、我等に大なる憐を賜ふ神を福音せり。

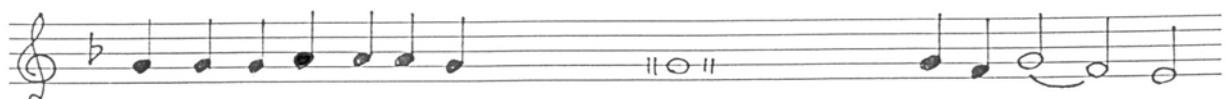
トロパリ 2言同



義人の記おくは賛美するにあり



なんじには前駆や主の証はたれり



なんじはじつに諸預言者よりも尊きものとあらわれたり



けだし伝えられしものを流水に洗すにも耐うるものとなれり



ゆえにあまんど真じつのために



くるしみをうけて地獄にある者にも肉体にあらわれて



世のつみをにないわれらに大なる憐みをたもう神を福音せり

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

小讃詞、第五調（徹夜禱早課の「主や爾は崇め讃めらる」と同じメロディで）

前駆の光栄なる斬首は／神の定制に在らざるなし、地獄に在る者にも救世主の降臨を伝へん為なり。不法の殺害を求めシロディアは泣くべし、神の法に非ず、永生の世に非ずして、暫時なる浮世を愛したればなり。

提綱、第七調

義人は主の為に楽しみて、彼を恃まん。句、神よ、我が禱の時我が声を聴き給へ。

ホロキメン



義人は主のためにたのしみてかれをたのまん



かれをたのまん

使徒の誦読は聖使徒行実 33 端

「アレルイヤ」、第四調、

義人は繁ること棕櫚の如く、高くなることリワンの柏香木の如し。句、彼等は主の宮に植えられて、我が神の庭に栄ゆ。

4 調



アレルイヤ アレルイヤ アーレルイヤ

福音經の誦読はマルコ 24 端。

領聖詞、義人は永く記憶せられ、悪評を懼れざらん。（111 聖詠）

領聖詞



義人は永く記憶せられ 悪評をおそれざらん



アレルーヤ アレルヤ アレルーヤ

（111 聖詠を区切って誦し、「義人は…畏れざらん」をリフレインとして繰り返す、最後にアレルヤを歌う。）

【注】知るべし、此の祭若し主日に当らば、晩課、早課、及び聖体礼儀に於て、一切主日の奉事を先にす。